

平成25年第3回(6月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序

- | | | |
|----|-----|-------|
| 1 | 16番 | 山崎恒男君 |
| 2 | 19番 | 鷺山喜久君 |
| 3 | 17番 | 榛葉正樹君 |
| 4 | 5番 | 窪野愛子君 |
| 5 | 6番 | 小沼秀朗君 |
| 6 | 15番 | 山本行男君 |
| 7 | 13番 | 中上禮一君 |
| 8 | 14番 | 鈴木久男君 |
| 9 | 22番 | 竹嶋善彦君 |
| 10 | 8番 | 渡邊久次君 |
| 11 | 7番 | 山本裕三君 |

平成25年第3回(6月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序(予定)

6/24 AM 16番 山崎恒男君

19番 鷺山喜久君

PM 17番 榛葉正樹君

5番 窪野愛子君

6番 小沼秀朗君

15番 山本行男君

6/25 AM 13番 中上禮一君

14番 鈴木久男君

PM 22番 竹嶋善彦君

8番 渡邊久次君

7番 山本裕三君

一般質問通告要旨

議席番号	16	氏名	山崎恒男	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	------	-----------------

1 市長2期目の市政運営について (答弁：市長)

- (1) 市長自身による「松井ビジョン」を強調して、中長期の市政運営指針を示した「第2次掛川市総合計画」を策定する必要があると思うが、市長の考えを伺う
- (2) 現総合計画策定以降7年目、合併9年目、政治・経済、社会環境、市民意識の変化をどのように受け止め、市政に反映しようとしているのか伺う
- (3) 人口の減少、超高齢社会は本市も現実の問題である。これに対する市長の見通しと対策について伺う
- (4) 定住人口の増加と安定した税収確保の対策について、市長の考えを伺う

2 「ふくしあ」の成果と課題そして今後について (答弁：市長)

- (1) 「ふくしあ」について、市長はどのように評価をしているか伺う
- (2) 「ふくしあ」に対する市民の期待は大きい。市民の反応を市長はどのように受けとめているのか伺う
- (3) 「ふくしあ」にかかわる多職種連携・協力関係は円滑に機能し、市民ニーズに対応できているか、改善すべき課題はないか伺う
- (4) 「ふくしあ」の成果及び課題が、今後計画される新規施設に反映されようとしているのか伺う
- (5) 今後増加が予測される、高齢者二世帯、独居老人世帯における在宅介護機能の低下が想定されるが、見通しと対策について伺う
- (6) 地域における支援団体等による活動に対して、行政支援の充実強化が求められると思うが、その対策について伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	19	氏名	鷲 山 喜 久	質問の方式 (一問一答・ <input checked="" type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	---------	--

- 1 安倍晋三首相が進めている憲法第96条の改定について市長・教育長として反対か伺う (答弁：市長・教育長)

- 2 「非核平和都市宣言」の発展について (答弁：市長)
 - (1) 「希望が見えるまち、誰もが住みたくなるまち掛川」の実現のために「平和行政」を進める考えはないか伺う
 - (2) 「非核平和都市宣言」に基づいて懸垂幕の掲示などを行っているが、今後どのような取り組みを考えているか伺う

- 3 掛川市重度心身障害者タクシー利用料金助成について (答弁：市長)
 - (1) 「中東遠総合医療センター」が開院して、タクシー利用者への料金助成を袋井市並みに（袋井市はタクシー券が1回につき4枚使用できる）改める考えはあるか伺う

- 4 中東遠総合医療センターについて (答弁：市長)
 - (1) 中東遠総合医療センターは開院1カ月半を経過したが、通院者や入院患者からどのような声（感想）があるか伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	17	氏名	榛 葉 正 樹	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	---------	-----------------

- 1 2期目の松井市政の基本理念としての「希望」について (答弁：市長)
 - (1) 2期目も基本理念である「希望が見えるまち」とするのか伺う
 - (2) 何故、「希望」を基本理念としたのか伺う
 - (3) 1期目で「希望の力」はうまく引き出せたと評価しているのか伺う

- 2 内陸フロンティア構想(案)を題材に、2期目の松井市政が標榜するまちづくり全体の基本的な考え方とその方向性のあり方について (答弁：市長)
 - (1) 構想(案)の位置づけと名称について伺う
 - (2) 内陸フロンティア構想の取り組みについて課題は何か伺う
 - (3) 市長のまちづくりの基本姿勢とありたい姿に対しての掛川の姿について伺う

- 3 松井市長が所信表明として提示したまちづくり像の実現へ向けた方法について (答弁：市長)
 - (1) 7つの戦略に基づいた行動計画の必要性と認識を伺う
 - (2) 施策の推進方法(方法と推進体制)について伺う
 - (3) 南部沿岸地域等着手が急がれる地域での取り組みを伺う

- 4 公共的なサービス提供へのICT活用や行政事務運営におけるICT活用等、ICT活用の方向性とあり方について (答弁：市長)
 - (1) 急速に進展するICT活用のライフスタイルについて伺う
 - (2) ICTの限界と可能性について伺う

一般質問通告要旨

議席番号	5	氏名	窪野愛子	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	------	-----------------

1 男女共同参画社会実現について

(答弁：市長)

- (1) 松井市政1期4年間の取り組みと成果について伺う
- (2) 女性の社会参画をさらに推進するためには何が必要と考えているか伺う
- (3) 第2次掛川市男女共同参画行動計画に基づき、年次ごとの目標数値が必要と思うが見解を伺う

2 男女共同参画の視点からの防災・減災対策について

(答弁：市長)

- (1) 地域防災計画や避難所運営マニュアル等の作成や見直しに、女性の視点は反映されているか伺う
- (2) 自主防災組織における女性の参画を促進し、女性リーダーの育成を図ることが急務と思うが見解を伺う
- (3) 大規模災害時に備え、危機管理課女性職員の増員が必要と思うが増員の計画はあるのか伺う
- (4) 災害時、市役所に設置される災害対策（警戒）本部の機能を高め、昼夜・長期化に備えて男女本部員への人的配慮が必要と思うが見解を伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	6	氏名	小 沼 秀 朗	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	---------	-----------------

1 掛川市内スマート I C 開設について (答弁：市長)

- (1) 中東遠総合医療センターに隣接する小笠 P A スマート I C 開設について伺う
- (2) 内陸フロンティア構想が広がる新東名スマート I C 開設について伺う

2 中東遠中心都市掛川市の駅前シンボル東街区再開発について (答弁：市長)

- (1) まちのランドデザインの中での東街区のあり方について伺う
- (2) 掛川駅前東街区市街地再開発事業の床取得をする、「弥栄かけがわ(株)」及び「かけがわ街づくり(株)」の株主募集の考え及び市の関わりについて伺う
- (3) 建物建設に際し地元業者活用の考えを伺う

3 ゲリラ豪雨水害について (答弁：市長)

近年、世界的な地球温暖化により異常気象の被害が問題とされている。日本各地でもゲリラ豪雨が多発し、甚大な被害が生じている。当市における豪雨対策について伺う。

- (1) 浸水被害が発生しやすい南郷地区についてその水路整備等の排水対策について伺う
- (2) 中東遠総合医療センター及び菖蒲ヶ池工業団地建設がされた西南郷地区の排水対策について伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	15	氏名	山 本 行 男	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	---------	-----------------

1 公共工事設計労務単価に係る特例措置について伺う (答弁：市長)

国土交通省は公共工事の積算に用いる労務単価を今年度から全国平均15.1%の引き上げを行い、自治体や関係団体に新単価の早期適用及び新単価の運用に係る特例措置を要請した

- (1) 掛川市はこの要請を受けてどのように対応をするか伺う
- (2) また実施した場合の財源確保について伺う
- (3) 旧労務単価を適用した契約については新労務単価による契約変更の協議を請求できるとあるが、どのように対応するか伺う
- (4) この引き上げは職人の人件費などを見込んだものが主であり業界への若手入職者確保策と思うがいかがか

2 風疹対策について伺う (答弁：市長)

- (1) 全国的に風疹が昨年度より約3倍流行しているが掛川市内での状況について伺う
- (2) 保健予防課に問い合わせが市民から増えてきていると聞くがいかがか
- (3) 全国的に予防接種への助成がされてきているが掛川市の対応について伺う

一般質問通告要旨

議席番号	13	氏名	中 上 禮 一	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	---------	-----------------

1 協働のまちづくり元年に当たって、市長の思いを伺う (答弁：市長・教育長)

- (1) 自治基本条例が4月1日に施行され、市長念願の協働のまちづくりがスタートした。本市では、生涯学習と報徳によるまちづくりが柱だと思うが、協働のまちづくりの気運を高める方法として考えていることは何か伺う
- (2) 大日本報徳社の3つの歴史建造物の修復がされ、市長は「報徳思想の学習実践、発信を推進する」との意欲を示された。どのような連携を考えているのか
- (3) 各地域の報徳社の現状に対する市長の感想と今後に期待することは何か
- (4) 偉人の功績を大切にすることを育むこともまちづくりには大切と思うがいかがか
- (5) 掛川市自治基本条例の市民説明会が開催されたが、質問や意見等どのようなものがあつたのか伺う

2 世界農業遺産を活用した掛川市の振興策と魅力発信事業について伺う

(答弁：市長)

- (1) 世界農業遺産になると国内外での知名度が高まり、国際的な農産物取り引きや観光の振興が期待されると言われるが、どのように進めようとしているのか
- (2) 本市のお茶の品質は折り紙付きであるが、消費をさらに拡大していくためには、消費者が何を求めているのかを研究していく必要があると思うがいかがか
- (3) 世界農業遺産認定で茶草場農法としての産地「掛川市」が勢いづくと思われるが、農業の活性化に向けて何か施策を考えているか
- (4) 掛川市の魅力を発信するためには、企業とのタイアップも重要かと思われる。事業として考えられることはどのようなことがあるか

3 台風シーズンを控え、停電復旧作業について伺う

(答弁：市長)

- (1) 停電の復旧作業で市として留意していることは何か
- (2) 問い合わせの電話が不通になっていることが多いが原因は何か

一般質問通告要旨

議席番号	14	氏名	鈴木久男	質問の方式	(一問一答)・一括
------	----	----	------	-------	-----------

1 新市建設計画の意義と位置付けについての考え方を伺う (答弁：市長)

新市建設計画に何も触れられていなかった中東遠総合医療センター、希望の丘計画の2つが、現在のまちづくり計画の柱となっている。

大きく政策転換したことにより「新市融合に向けたハード事業」の推進が遅れていないか伺う

2 「海山連携のまちづくり」推進の考え方を伺う (答弁：市長)

(1) 内陸フロンティア計画の一方、南部地域の振興策をどのように位置づけ進めていくのか伺う

(2) 震災以降疲弊している南部地域の安心・安全に対する施策をどのように考えているのか伺う

3 新市建設計画の最重点計画に上げられている南北幹線道路計画（一般農道掛川高瀬線に絞って）について伺う (答弁：市長)

(1) 平成26年度には市道入山瀬線と牛渕川に架かる橋梁が完成することで、都市計画道路海洋公園線がオープンする。このため市街地に至る主要交通網として最も重要な、一般農道掛川高瀬線改良の要望は一層高まると言える。喫緊の課題であると思うが、市長の見解を伺う

(2) 農道全線開通以来5年を経過し、平成25年度は県農地部局との事後再評価の年と聞いているが、協議の状況を伺う

(3) 農道とは、農村地域において農業の用に供するために設けられた道路である。現実には通勤に使われる主要生活道路や産業道路としての役割が高いと思うが、市長の見解を伺う

(4) 救急車の運行に支障はないか伺う

(5) 防災用緊急避難道路としての位置づけがされているのか伺う

(6) 下層路盤（舗装厚）の構造を伺うとともに、一般県道との比較を伺う。また、年間平均の舗装補修に要する管理経費額を伺う

(7) 農道を主要地方道並みの道路規格に改良するにはどのような課題があるのか、以下の点について伺う

①設計速度

- ②車道幅員
- ③路肩幅
- ④縦断勾配
- ⑤下層路盤（舗装構造）
- ⑥道路線形
- ⑦自歩道

(8) 地元関係者との調整について、以下の点について準備状況を伺う

- ①周辺農地（茶園）へのアクセス
- ②工事期間中全面通行止めが必要か
- ③更なる用地確保が必要か

(9) 合併特例債は平成26年度に終了するが、その後の財源確保はどのように考えているか伺う

(10) 所信表明では「関係者、関係機関と調整を図り推進して参ります」とだけ言っているが、市長として合併最重点施策の南北道の推進について、その具体策と意気込みを伺う

(11) 向こう4年間（市長任期中）の事業着手に期待しているが、その予定について伺う（以上の項目を並べただけでも施行までには課題が山積している。相当の覚悟が求められると思うが）

(12) 将来にわたり計画を担保するため、道路整備プログラムでの位置付けをどのように考えているのか伺う

一般質問通告要旨

議席番号	22	氏名	竹 嶋 善 彦	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	---------	-----------------

1 超高齢社会と人口減少社会の到来に掛川市としてどう立ち向かうか

(答弁：市長)

少子高齢化が社会問題となってしばらくたつが、超高齢社会、人口減少社会の本格的到来を迎え、税収の先細り、医療・介護費用の増加で福祉部門の問題と位置づけられる傾向にあるが、高齢化は、経済、産業、暮らしの構造変化や生活基盤のあり方、ひいては、自治体の存亡にまで大きく影響する。都市計画や産業政策、教育など、その影響は広範な行政分野に及んでおり、自治体全体で取り組まなければならない大きな政策課題となっている

- (1) 市長はこの超高齢社会の到来をどのように捉えているか伺う
- (2) 第1次総合計画（平成19年から平成28年）の基本計画部分について平成23年度に5年ごとの見直しがなされ、人口推計についても修正がはかられた。これから第2次総合計画の策定に入ることになるが現役世代の減少、高齢者の増大等超高齢社会の到来の中で何に主力を置く必要があるか伺う
- (3) 自治基本条例の制定と協働のまちづくり元年は市民に何を求めるか伺う
- (4) 掛川駅前東街区再開発事業が計画されているが、中心市街地活性化とコンパクトシティの誘導をどのように考えるのか伺う
- (5) 職場から地域社会に戻る経験豊富で技術を持つ人々に、働く場の提供と健康長寿社会へ高齢者の生きがい作り、地域支え合いの仕組みづくりが重要と思うがどのような取り組みをしているか伺う
- (6) 掛川市の緑茶の効能研究はどのように進めていくのか伺う（緑茶予防医学・健康科学研究所、掛川スタディ）

2 世界農業遺産認定と今後の取り組みについて

(答弁：市長)

石川県で開催された「世界農業遺産国際会議」において掛川市を含めた4市1町で営まれている茶草場農法が「静岡の茶草場」として世界農業遺産に認定された。関係者の喜びは大きいですが、これを今後どのように生かしていくか、どのように維持管理していくのか課題も多い。今後の取り組みについて市長の考えを伺う

- (1) 低迷する茶業界であるが今回の世界農業遺産認定をどのように評価しているのか伺う
- (2) 生物多様性を育みながら長く受け継がれてきた伝統農法であるが、世界農業

遺産として継続的によりよい維持管理が要求される。高齢化の顕著な中山間地での草刈りはなかなか苦勞も多い。行政として多くの支援が必要であると思うがどのように考えているのか伺う

(3) 茶の品質向上のために120年前から続いてきた地道な作業により、カケガワフキバッタやフジタイゲキなど絶滅危惧種を含む300種もの動植物保全に貢献してきた。ウォーキングや視察観光者が増加すると思われるが保護対策はどのように考えているのか伺う

(4) 4市1町で構成された「静岡の茶草場農法」が世界農業遺産に認定されたわけであるが、ブランド化を進めるのに農法、エリアなど基準が必要と思うがどのように考えるか、また販路拡大や商品価格引き上げには、地元生産者、茶商、行政がどのように連携をとっていくのか伺う

(5) 道路整備、トイレ、駐車場の確保など受け入れ体制と周辺観光案内の充実と情報発信はどのように考えているのか。また、光ケーブルの敷設はいつになるのか伺う

(6) 富士を仰ぎ眼下に広大な茶園風景を眺める粟ヶ岳からの展望は、欠かすことのできないものとなるが、狭隘な道路は来訪者を悩ませ続けてきた。粟ヶ岳周辺整備計画はどのように考えているのか伺う

(7) 地すべり地域に指定されているところに住んでいる皆さんは、家屋の改築も増築もできない厳しい規制の中で生活をしている。この地で農業を守ろうとしている方には農地転用の規制緩和はできないか伺う

一般質問通告要旨

議席番号	8	氏名	渡邊久次	質問の方式	(一問一答)・一括
------	---	----	------	-------	-----------

1 「南海トラフ巨大地震」と浜岡原子力発電所の安全対策について

(答弁：市長)

- (1) 所信表明の「安全・安心のまちづくりの実現」の中に、浜岡原子力発電所の安全対策が入っていないのはなぜか伺う
- (2) 福島第一原子力発電所事故による災害は、自然災害なのか人災なのか、見解を伺う
- (3) 「南海トラフ巨大地震」の第4次被害想定について「津波以外にも地震動や液状化など、・・・さらに拡大すると考えられます。」というが、どのように拡大されると考えているのか伺う
- (4) 東日本大震災（M9.0）と阪神淡路大震災（M7.2）を比較すると、地震の規模、震源の位置、人的・物的被害の大きさ、被害の主要な原因（津波か地震動か）、被害の状況等について、どのような差異があるのかを伺う
- (5) 「南海トラフ巨大地震」が発生した場合、津波と地震動が重なって過酷事故を起こす危険性がさらに高くなるのではないかと思うが、見解を伺う
- (6) 2009年8月11日の駿河湾地震（M6.5）の時、浜岡原子力発電所5号機だけが異常に強い揺れを受けているが、巨大地震の際にも同じことが起きる可能性について伺う
- (7) 子どもの内部被曝を防ぐために、安定ヨウ素剤の効用について見解を伺う
- (8) 安定ヨウ素剤の保管、配付について、学校と一般家庭でどのように考えているのか伺う
- (9) 再稼働について、「将来にわたり安全・安心が確保される」とは100%安全ということなのかを伺う（朝日新聞「11市町長アンケート」）
- (10) 「市民の理解」を得るための方策と判断基準を伺う（朝日新聞「11市町長アンケート」）
- (11) 掛川市の「非核平和都市宣言」の中にある「原子力の平和利用」について見直すのかどうかを伺う

2 津波防災対策について

(答弁：市長)

- (1) 国土交通省指針の「津波避難困難区域」に該当する地域の面積、戸数がどの程度あると考えているのか伺う
- (2) 「浜松御前崎自転車道」をどの程度かさ上げすれば防潮堤の機能を有することとなるのか伺う

3 教育・子育て支援の充実について

(答弁：教育長)

- (1) 市内小・中学校の図書館司書の配置状況を伺う
- (2) 地方交付税交付金による学校図書館充実のための事業について、進捗状況を伺う
- (3) 掛川区域の小学校給食調理場のセンター化についてメリット、デメリットを伺う
- (4) 待機児童をゼロにするために取り組むべき課題について伺う

一般質問通告要旨

議席番号	7	氏名	山本裕三	質問の方式	(一問一答)・一括
------	---	----	------	-------	-----------

1 小規模企業誘致、企（起）業支援について （答弁：市長）

松井市長のマニフェストに「若者が農業、工業、商業でいきいきと働く街」とある。工業に関して、掛川市は大型企業誘致に成功しており、今後も大きく期待をしている。しかしながら中小規模の商業の誘致に関しては活発な状況ではない。特に全国の地方自治体が力を入れているIT企業などソフト産業の誘致、育成に関してはおくれをとっている。

現在の掛川市における企業誘致の助成制度は、設備投資費3,000万円以上で固定資産税等の補助金交付されるものであり、リーマンショック後に産業立地の促進と雇用機会の拡大を狙った制度である。

現在多くの地方自治体ではIT企業など中小企業誘致専用の助成制度をつくり、先進的な企業を県外（特に大都市圏）から積極的に誘致を行い、街の産業の活性化を図っている。大都市圏の企業も労働環境のよい地方都市に会社を移転することを考えている企業も多くある

- (1) 市内でのIT等、次世代の産業の育成について伺う
- (2) 農業にITを活用し活性化をするとマニフェストに記載があるが、具体案を伺う
- (3) 現在、小規模企業支援、起業支援は支援内容が明文化されておらず、広く広報もされていないが、私としては全国に掛川市のPRを広く行い、全国から可能性のある企業を呼び入れ活性化させるべきだと考えている。今後の小規模企業支援、起業支援そして小規模企業誘致に関してどのように考えているか伺う

2 公共施設（指定管理施設）の管理運営について （答弁：市長）

昨今、地方自治体は財政負担の軽減のために公共施設の閉鎖や統合、民間への委託などさまざまな工夫を凝らし市民サービスの低下を極力抑えた行財政改革を行っている。現在、掛川市でも38施設が生涯学習振興公社や第3セクターなどの指定管理者により運営を行っている。その中でも文化施設でありながら観光的要素も強い清水邸、二の丸茶室、竹の丸の3施設の平成23年度の支出は年間合計2,880万円となり市財政の負担となっている。文化財を保護していくことは市にとって非常に大事なことであるが、同時に観光資源をより活用し収入を増やし財政負担を軽減することも市政の大きな仕事の一つと考えている

- (1) 今後の施設管理について、収益性のある程度求めるべき施設（観光施設、さんりーな、駐車場等）と純粹な市民サービスとしての施設と分けて考えるべきだと思っているが、今後の施設管理のあり方について伺う
- (2) 掛川城の一年間の来場者は年間10万人以上であるのに対して掛川城近辺にある二の丸茶室、竹の丸は掛川城の来場者の1割未満である。掛川城の来場者を他施設に誘導できるよう施設単体の企画立案だけではなく掛川城周辺エリアとして、観光施設の集合体として集客の企画立案が必要と考えている。掛川城エリアの集客、そして今後の運営の方向性について伺う

3 街中の高齢化について

(答弁：市長)

掛川中心部は市内でも最も高齢化が進んでいる地域である。若い世代が郊外に家庭を持ち、近年ますます高齢化が進み空き家も目立っている。今後ますます高齢化による問題が大きくなることは必須である。特に緊急の課題として防災対策、避難誘導について市長の見解を伺う

- (1) 街中の高齢化の現状についてどのように思われているか、そして行政としてどのような対策を考えているか見解を伺う
- (2) 市全体としては災害時要援護者避難支援計画などがあるが、過度に高齢化しており、築年数が経っている木造建築が密集する街中は特別な災害・防災対策が必要だと感じているが、街中に対する防災対策について伺う